

第4学年 総合的な学習の時間 学習指導案

町田市立相原小学校

4年2組 32名

指導者 井上 三郎

1 単元名 「相っ子 安全 サバイバー ～地域の防災を調べよう～」

2 単元目標

災害発生時の防災における安全な町づくりのための活動を行うことを通して、命を守るための方法やそれを守る町の取組について理解し、地域の一員（相っ子）として災害に備えるためにできることを考え、学んだことを自らの生活や行動に生かすことができるようにする。

また異学年（3年生）との交流を通して相原地域のよさに気付き、相原の未来について考えることができるようにする。

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 災害発生時の危険な場所や安全な避難の仕方を知るとともに、地域には住民の安全を支える取組があることを理解している。	① 身近な地域の防災上の課題から問題を発見し、調べたことを基に、自分にできる解決の仕方について計画を立てている。	① 災害について関心を持ち、自分の生活を見直したり、他者の考えを認めたりしながら課題を解決しようとしている。
② 学校や地域の防災について、目的に応じて、方法を考えて調べることができる。	② 多様な立場の人にとって安全な町づくりになるよう、必要な情報を取捨選択したり、複数の情報を比較・関連付けたりして解決に向けて考えている。	② 多様な立場の人の考えを生かしながら協働的に探究活動に取り組もうとしている。
③ 防災に関する意識の高まりは、地域の防災上の課題を解決するために探究的に学習してきたことの成果であると気付いている。	③ 伝える相手や目的に合わせて分かりやすくまとめ表現している。 ④ 相原地域のよさや課題点をもとによりよい生活のためにどのようなことができるのか考え、表現している。	③ 自分と防災や地域の人々との関わりに気付き、自分の命を守る行動や、地域のためにできることを考え行動しようとしている。

4 単元について

(1)単元設定の理由

社会科の学習では都内の降雨による災害を学習した。その後本単元と関連させて『災害』に焦点を当てる。本校の南側には境川が流れ、北側には山に面している地形である。そのため大雨などの際には川が氾濫したり土砂崩れが起きたりする可能性がある。また町田街道は道幅が狭いが交通量が多く、交通事故の可能性や災害時に道路が混雑してしまう可能性がある。これらのことから、地域の特性を知り、自分の身を守るための方法を理解するとともに、地域の一員として防災のための安全な町づくりに参画する資質・能力の育成が求められると考えた。自分たちでフィールドワークに出かけたり、ゲストティーチャーを招いたりすることで多面的・多角的に自分たちの活動内容を捉え直し、生活や行動を改善する必要性を感じることができると考え、本単元を設定した。

(2)児童の実態

1学期の総合的な学習の時間では学校の周辺にある自然をテーマにして『野草』について調べた。グループごとに「遊び」「効能」「見た目」などテーマを細分化していき、調べ学習やゲストティーチャーによるフィールドワークを通して相原地域にある豊かな自然について子供たちは理解を深めた。しかし児童によっては調べ方がわからなかったり、調べる意欲を持続させることができなかったりした。今回は以下のような手立てをとって児童が「よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力」を育成していく。

(3)校内研究との関わり

今年度の校内研究のテーマである「地域との関わりを通して共に学び合い高め合う児童の育成～地域の特色を生かした相っ子学習の充実～」を受けて以下のような手立てを考えた。

①ICT機器の活用

ICT機器の「視覚性」「共有性」「保存性」の特徴を生かして指導に当たる。

「視覚性」

フィールドワークに行く際にはデジタルカメラをグループに1台用意し、自分たちが見つけた安全や危険などを写真で記録できるようにする。また調べたことを整理する際には、紙のマップではなく、地図アプリ（以下padlet）を使用し、自由に拡大、縮小ができるようにする。

「共有性」

情報を整理する際にはpadletや共有アプリ（以下Figjam）を活用し、友達の意見を取り入れられるようにする。

「保存性」

padletもFigjamも自動保存できるため、データがなくなりにくい。万が一児童がデータを消してしまったときでも自動バックアップを使って再現することができる。



4年 相っ子安全マップ（padlet）



3年 相原マスター（padlet） 1組



2組

②適切な学習集団の形成

単元を通して学年で学習に取り組むことで児童が本当に調べたいテーマで調べることができる考えた。またグループ分けは教師が行うことで児童が学びやすい環境を整えられるようにした。

単元の終盤では3年生との発表会（異学年交流）を通して多面的・多角的に相原地区について考えられるようにする。

③単元指導計画の工夫

総合的な学習のぐるぐる図を意識して単元の指導計画を立てる。その際にVC（ボランティアコーディネーター）と連携し、地域人材のGT（ゲストティーチャー）を活用し学びを深められるようにする。また指導計画に明記し次年度以降も指導しやすくなるようにする。

5 指導計画・評価計画（全30時間）

	時間	小単元の目標 ○主な学習活動 ○の中の数字は時数	重点評価規準 【評価の観点】	他教科との関連・ GT・ICT・思考ツール
課題設定	2	課題を決めよう。 ①災害について話し合いテーマを決める。 「日本にはどのような危険(安全)が潜んでいるのだろうか。」 ①テーマを決めて調べ方を話し合う。 ・地震、津波、獣害、紛争、火山、 ・インターネット、学校図書館	・災害について関心を持ち、自分の生活を見直したり、他者の考えを認めたりしながら課題を解決しようとしている。【態度】 ・身近な地域の防災上の課題から問題を発見し、調べたことを基に、自分にできる解決の仕方について計画を立てている。【思・判・表】	社会科「風水害」 思考：イメージマップ
情報収集	4	調べ学習をしよう。 ④テーマごとに調べる。 ・インターネットや学校図書館の資料を中心に調べ学習を行う。	・災害発生時の危険な場所や安全な避難の仕方を知るとともに、地域には住民の安全を支える取組があることを理解している。【知・技】	ICT: Figjam、インターネット 国語「調べ学習の仕方」 思考：矢印と囲み
整理分析	4	調べたことをまとめよう。 ④調べたことをまとめる方法を知りまとめる。 ・パドレットや画用紙にまとめる。 ・兄弟グループで発表し合い内容を改善する。	・多様な立場の人の考えを生かしながら協働的に探究活動に取り組もうとしている。【態度】	ICT: Figjam、padlet 国語「発表の仕方」 思考：ピラミッドチャート
まとめ・表現	1	発表会をしよう。 ①ほかのグループと発表会をして交流する。 ・2つのグループに分かれ発表会を行う。 ・視点カードをもとに発表を評価し合う。	・伝える相手や目的に合わせて分かりやすくまとめ表現している。【思・判・表】	ICT: padlet、Forms
課題設定	2	新たな課題を決めよう。 ①発表会を振り返り新たな課題をもち交流する。 ・世界の安全について調べたい。 ・相原の安全について調べたい。 「相原にはどんな危険(安全)が潜んでいるのだろうか。」 ①相原地域の安全について話し合い、テーマを決めて調べ方を話し合う。 ・フィールドワーク ・ゲストティーチャー（インタビュー）	・災害について関心を持ち、自分の生活を見直したり、他者の考えを認めたりしながら課題を解決しようとしている。【態度】	VC との打ち合わせを行う。 GT 例：警察・市役所 消防・消防団 地域の方

情報収集	2	<p>相原の危険（安全）なところを探そう。</p> <p>②西・東方面に分かれてフィールドワークに行く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・多様な立場の人にとって安全な町づくりになるよう、必要な情報を取捨選択したり、複数の情報を比較・関連付けたりして解決に向けて考えている。【思・判・表】 	ICT：デジタルカメラ
	5	<p>インタビューをしよう。</p> <p>②インタビューの内容を考える。</p> <p>③インタビューをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学校や地域の防災について、目的に応じて、方法を考えて調べている。【知・技】 	国語科 「インタビューをしよう」 GT：警察・消防・市役所 地域の方
整理分析	6	<p>調べたことをまとめよう。</p> <p>⑤災害マップにまとめる。</p> <p>①発表会の練習をする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・多様な立場の人にとって安全な町づくりになるよう、必要な情報を取捨選択したり、複数の情報を比較・関連付けたりして解決に向けて考えている。【思・判・表】 	ICT：padlet、スライド 思考：ピラミッドチャート
まとめ・表	2	<p>3年生と交流発表会をしよう。</p> <p>②3年生と交流発表会をする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・伝える相手や目的に合わせて分かりやすくまとめ表現している。【思・判・表】 	ICT：padlet、スライド
終末	2 (本時)	<p>調べてきたことをまとめよう。</p> <p>①発表会を振り返り相原マップにまとめる。</p> <p>①未来に相原について考える。(本時)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・相原地域のよさや課題点をもとによりよい生活のためにどのようなことができるのか考え、表現している。【思・判・表】 ・防災に関する意識の高まりは、地域の防災上の課題を解決するために探究的に学習してきたことの成果であると気付いている。【知・技】 	ICT：padlet、Forms 思考：ベン図 くま手チャート 国語科 「もしもの時にそなえよう」

6 本時の学習活動

(1) 目標

・相原地域のよさや課題点をもとによりよい生活のためにどのようなことができるのか考え、表現することができる。

【思・判・表】

・防災に関する意識の高まりは、地域の防災上の課題を解決するために探究的に学習してきたことの成果であると気付くことができる。【知・技】

(2) 展開 (30時間目/30時間)

	・学習活動	△予想される児童の反応	◇留意点・支援 ☆評価
導入	1 前時の活動を振り返る 本時のめあてを確認する	△ 相原は、自然豊か。 △ 安全な場所や危ない場所がある。 △ 様々な人が相原を支えている。	◇これまでの学習を写真で振り返り児童の関心を高める。
	10年後の相原も安心して住みやすい町にするためにはどうしたらよいのだろうか。		
展開	2 個人で考える。	△ ガードレールをふやす。 △ お店を増やす。	◇思考：くま手チャート ◇タブレット入力が苦手な児童に個別で支援を行う。
	3 考えたことをpadletで交流し、自分たちでできることか、できないことか分類する。	△ 不審者が嫌がるようにあいさつをたくさんやる。 △ 相原の良さを家族に伝える。	◇児童の意見に偏りがある場合には発問をして視野を広げさせる。
	4 テーマごとにグループを作り、課題を解決するためにどのような手立てを取るのか話し合う。 5 全体で交流する。	△ 町田街道の交通量が多いので立体歩道橋があればみんな安全に道路を渡れると思いました。そこで市役所をお願いしたいと思いました。	☆相原地域のよさや課題点をもとによりよい生活のためにどのようなことができるのか考え、表現している。 【思・判・表】 (padlet・発言)
終末	6 単元の活動を振り返る。	△ 今までも相原が好きだったけど、もっと好きになれた。 △ 防災対策がされているところを初めて知った。 △ 未来の相原について初めて想像することができてわくわくした。	☆防災に関する意識の高まりは、地域の防災上の課題を解決するために探究的に学習してきたことの成果であると気付いている。 【知・技】 (Forms)

(3) 協議会の視点

①地域の特色を生かした単元指導計画は、児童が進んで探究的に学ぶことができるために有効だったか。

②ICT機器を活用して児童の考えを共有することは、児童が協働的に学ぶために有効な手立てであったか。

(4) 板書計画など

相っ子 安全 サバイバー

めあて **10年後の相原も安心して住みやすい町にするためにはどうしたらよいのだろうか。**

流れ ①個人で考える。 熊手チャートの使い方
②padlet で共有する。
③グループで考える。
④ふりかえる。

Padlet の投影

10年後の相原も安心して住みやすい町にするにはどうすればよいだろうか。 撮影 / 再生

他の人に頼む **土砂崩れ** 自分ができる

木や砂利で土砂を防ぐ。 志音

雨が降ったら木や砂利でダムにしてくれる 志音

山を崩れにくくする

木やじゃりを増やす。 志音

木の手入れを、する こうへい

相原は山が多いけど、木がちゃんと植えてあるから、これ以上大規模な土砂崩れが山で起きるといことは言い難い。 こはる

はげ山が少なく森が多いので土砂崩れは起きません

雨が降ったら山に近づかない

山の近くを通らない

山から離れる

○成果●課題

- 地域を題材にしたことで児童は地域に親しみをもち、様々な視点で見られるようになった。
- 発表の対象（異学年）があることで発表の内容が深まった。
- 単元指導計画に他教科の関連を入れることで指導が明確にできた。
- ICT 機器を活用したことで地図と写真が一致し、児童の知識が深まった。
- 単元のゴール（終わり方）が明確でなかった。相原を知ってどう活用するのかを教師があらかじめもっておくことが大切ではないか。
- 地図学習をより効果的に活用できたのではないか。（様々な単元で関連させる。）